

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-5066

(P2010-5066A)

(43) 公開日 平成22年1月14日(2010.1.14)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 K 10/04 (2006.01)	A 4 7 K 10/04 F	3 K 1 0 0
A 4 7 G 29/00 (2006.01)	A 4 7 G 29/00 A	
D 0 6 F 57/12 (2006.01)	A 4 7 G 29/00 H	
	D 0 6 F 57/12 A	
	D 0 6 F 57/12 E	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-166880 (P2008-166880)
 (22) 出願日 平成20年6月26日 (2008. 6. 26)

(71) 出願人 000183428
 住友林業株式会社
 東京都千代田区大手町一丁目3番2号
 (74) 代理人 100077241
 弁理士 桑原 稔
 (74) 代理人 100098202
 弁理士 中村 信彦
 (72) 発明者 冢村 敏也
 東京都千代田区丸の内一丁目8番1号 住
 友林業株式会社内
 Fターム(参考) 3K100 AA01 AA04 AA16 AA17 AC01
 AD01 AE01 AE11 AE12 AF04
 AH09 AJ05

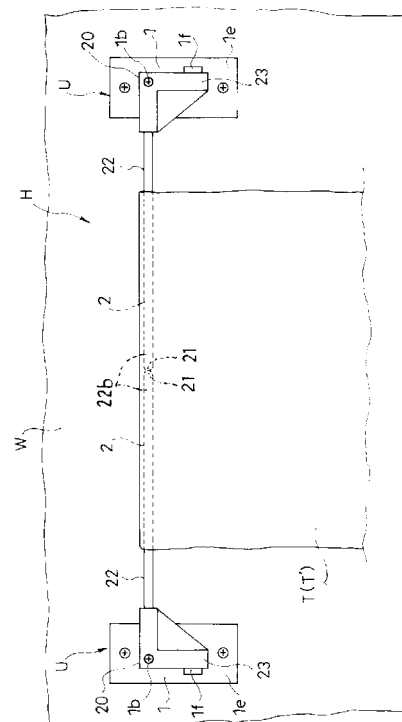
(54) 【発明の名称】 住宅におけるタオル掛け構造

(57) 【要約】

【課題】住宅のサニタリーなどにおいて利用されるタオルさらにはバスタオルをそこにおいてより掛けやすくするタオル掛け構造の提供。

【解決手段】壁Wへの取付部1aを備えたベース1と、このベース1によって略水平に支持されるタオルバー2とを備えてなる左右一対のタオルバーユニットU、Uを備えている。一対のタオルバーユニットU、Uの少なくとも一方は、タオルバー2の基端20側を軸部1bをもって前記略水平の基準位置からの上方向に向けた回転操作可能にベース1に組み合わせてなると共に、前記基準位置において、右側のタオルバーユニットUのタオルバー2の自由端21と、左側のタオルバーユニットUのタオルバー2の自由端21とが、接し又は近接されるように、両タオルバーユニットU、Uを壁Wに取り付けさせる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

壁への取付部を備えたベースによって略水平に支持されると共に、このベースを介して壁に取り付けられる左右一対のタオルバーを備えており、

この一対のタオルバーの少なくとも一方は、タオルバーの基端側を軸部をもって前記略水平の基準位置からの上方向に向けた回動操作可能にベースに組み合わされていると共に、

前記基準位置において、右側のタオルバーの自由端と、左側のタオルバーの自由端とが、接し又は近接されるようになっていることを特徴とする住宅におけるタオル掛け構造。

【請求項 2】

壁への取付部を備えたベースと、このベースによって略水平に支持されるタオルバーとを備えてなる左右一対のタオルバーユニットを備えており、

この一対のタオルバーユニットの少なくとも一方は、タオルバーの基端側を軸部をもって前記略水平の基準位置からの上方向に向けた回動操作可能にベースに組み合わせてなると共に、

前記基準位置において、右側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端と、左側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端とが、接し又は近接されるように、両タオルバーユニットを壁に取り付けさせてなることを特徴とする住宅におけるタオル掛け構造。

【請求項 3】

右側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に、タオルバーの水平支持状態において、左側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に形成させた被受容部を上方から受け入れてこれを支持する受容部が形成されていると共に、

左側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に、タオルバーの水平支持状態において、右側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に形成させた被受容部を上方から受け入れてこれを支持する受容部が形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の住宅におけるタオル掛け構造。

【請求項 4】

左右一対のタオルバーユニットがそれぞれ、二以上のタオルバーを、これらのタオルバーのベースによる支持高さとは壁からの距離とは相互に一致しないように備えていると共に、

各支持高さにおいてそれぞれ、右側のタオルバーユニットのタオルバーと左側のタオルバーユニットのタオルバーとが水平支持状態において協働して一枚のタオルを掛け得る対となるように、両タオルバーユニットを壁に取り付けさせてなることを特徴とする請求項 2 又は請求項 3 に記載の住宅におけるタオル掛け構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、典型的には、住宅のサニタリーとなるスペースに備えられて、このスペースでのタオルやバスタオルの利用のために供されるタオル掛け構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

キッチン、トイレ、風呂、洗面所などの住宅のサニタリーとなるスペースにおいては、そこで利用されるタオルやバスタオルを掛けておくために、タオル掛けがあらかじめ設置されて住宅備品として住宅の一部をなすものとなっている。かかるタオル掛けは、一般に、壁面に固定される一対のブラケット間にタオルバーを架設して構成される。かかるタオル掛けにタオルを掛けるためには、壁とタオルバーとの間の隙間にタオルをその一端側から通した後、この一端側を下方に引き下ろすことを要する。通常のタオルの場合、かかるタオル掛けの設置位置は、大人を基準に決められるため、背の低い子供はかかるタオル掛けにタオルを掛け難いところであった。また、こうしたサニタリーにおいてバスタオルを掛けることも求められる場合があるところ、バスタオルは重さと厚さがあり前記引き下ろしが容易ではなく、また、バスタオルは丈が長いためタオル掛けの設置位置は高くせざる

10

20

30

40

50

を得ない場合があり、在来のタオル掛けでは設置位置によっては大人であってもバスタオルは掛け難くなる。

【 0 0 0 3 】

なお、比較的広い面を有するシーツなどを掛けやすくした物干し用ハンガーとして、特許文献 1 に示されるものがある。

【特許文献 1】特開平 9 - 1 8 2 8 9 8 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 4 】

この発明が解決しようとする主たる問題点は、住宅のサニタリーなどにおいて利用されるタオルさらにはバスタオルをそこにおいてより掛けやすくするタオル掛け構造を提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 5 】

前記課題を達成するために、この発明にあつては、第一の観点から、住宅におけるタオル掛け構造を、壁への取付部を備えたベースによって略水平に支持されると共に、このベースを介して壁に取り付けられる左右一対のタオルバーを備えており、

この一対のタオルバーの少なくとも一方は、タオルバーの基端側を軸部をもって前記略水平の基準位置からの上方に向けた回動操作可能にベースに組み合わされていると共に、

前記基準位置において、右側のタオルバーの自由端と、左側のタオルバーの自由端とが、接し又は近接されるようになっているものとした。

【 0 0 0 6 】

左右のタオルバーは基準位置においてその自由端を接しさせ、あるいは近接させることから、左右のタオルバーには両タオルバーの長さの和以内の幅のタオルやバスタオルであればそれを広げた状態で掛けることができる。タオルを掛ける作業は、少なくとも一方のタオルバーを上方に回動操作して左右のタオルバーの自由端間に間隔を形成させた後、二つ折りにしたタオルの内側にこの間隔を利用して左右のタオルバーのいずれか一方をその自由端から差し入れ、次いで前記回動のされたタオルバーが基準位置に戻るようこのタオルバーの一方側にかかるタオルを一旦寄せ、左右のタオルバーが共に基準位置に戻ったところでタオルを広げて左右のタオルバーに共にタオルが掛けられるようにしてなすことができる。これにより、タオルバーを高いレベルに位置させるように前記壁に備えさせた場合でも、容易にかかるタオルバーにタオルを掛けることができる。

【 0 0 0 7 】

また、前記課題を達成するために、この発明にあつては、第二の観点から、住宅におけるタオル掛け構造を、壁への取付部を備えたベースと、このベースによって略水平に支持されるタオルバーとを備えてなる左右一対のタオルバーユニットを備えており、

この一対のタオルバーユニットの少なくとも一方は、タオルバーの基端側を軸部をもって前記略水平の基準位置からの上方に向けた回動操作可能にベースに組み合わせてなると共に、

前記基準位置において、右側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端と、左側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端とが、接し又は近接されるように、両タオルバーユニットを壁に取り付けさせてなるものとした。

【 0 0 0 8 】

左右のタオルバーユニットのタオルバーは基準位置においてその自由端を接しさせ、あるいは近接させることから、左右のタオルバーユニットのタオルバーには両タオルバーの長さの和以内の幅のタオルやバスタオルであればそれを広げた状態で掛けることができる。タオルを掛ける作業は、少なくとも一方のタオルバーを上方に回動操作して左右のタオルバーの自由端間に間隔を形成させた後、二つ折りにしたタオルの内側にこの間隔を利用して左右のタオルバーのいずれか一方をその自由端から差し入れ、次いで前記回動のされたタオルバーが基準位置に戻るようこのタオルバーの一方側にかかるタオルを一旦寄せ、

10

20

30

40

50

左右のタオルバーが共に基準位置に戻ったところでタオルを広げて左右のタオルバーに共にタオルが掛けられるようにしてなすことができる。これにより、タオルバーを高いレベルに位置させるように前記壁に備えさせた場合でも、容易にかかるタオルバーにタオルを掛けることができる。

【 0 0 0 9 】

前記右側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に、タオルバーの水平支持状態において、左側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に形成させた被受容部を上方から受け入れてこれを支持する受容部を形成させておくと共に、

左側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に、タオルバーの水平支持状態において、右側のタオルバーユニットのタオルバーの自由端側に形成させた被受容部を上方から受け入れてこれを支持する受容部を形成させておくこともある。

10

【 0 0 1 0 】

このようにした場合、左右のタオルバーユニットのタオルバーが基準位置にある状態において、左右のタオルバーをその自由端において互いに支え合わせることができ、掛けられたタオルを安定的に支持することができる。

【 0 0 1 1 】

前記左右一対のタオルバーユニットがそれぞれ、二以上のタオルバーを、これらのタオルバーのベースによる支持高さとは壁からの距離とが相互に一致しないように備えるようにさせると共に、

各支持高さにおいてそれぞれ、右側のタオルバーユニットのタオルバーと左側のタオルバーユニットのタオルバーとが水平支持状態において協働して一枚のタオルを掛け得る対となるように、両タオルバーユニットを壁に取り付けさせておくこともある。

20

【 0 0 1 2 】

このようにした場合、二枚以上のタオルをそれを掛ける作業を容易に行えるようにした態様で、合理的に掛けておくことができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 3 】

この発明にかかる住宅におけるタオル掛け構造によれば、タオルバーを一般的なレベルに位置させるように備えさせている場合においては、背の低い子供でも容易にかかるタオルバーにタオルを掛けることができる。また、特に、比較的重くまた大きいためタオルバーの設置レベルを上方に配さざるを得ないバスタオルの場合でもそれを掛ける作業を容易ならしめる特長を有する。

30

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 4 】

以下、図 1 ~ 図 7 に基づいて、この発明を実施するための最良の形態について説明する。

【 0 0 1 5 】

なお、ここで図 1 ~ 図 3 はこの発明を適用して構成されたタオル掛け構造 H の基本的構成例を、図 4 および図 5 はかかる基本的構成例の構成の一部を変更して構成されたタオル掛け構造 H の第二例の要部を、図 6 および図 7 はかかる基本的構成例の構成の一部を変更して構成されたタオル掛け構造 H の第三例を、それぞれ示している。

40

【 0 0 1 6 】

この実施の形態にかかる住宅におけるタオル掛け構造 H は、典型的には、住宅のサニタリーとなるスペースに備えられて、このスペースでのタオル T やバスタオル T' の利用のために供されるものである。

【 0 0 1 7 】

かかるタオル掛け構造 H は、壁 W への取付部 1 a を備えたベース 1 によって略水平に支持されると共に、このベース 1 を介して壁 W に取り付けられる左右一対のタオルバー 2、2 を備えてなる。かかるタオル掛け構造 H は、一つのかかるベース 1 に左右一対のタオルバー 2、2 を備えさせ、これを前記取付部 1 a をもって壁 W に取り付けさせることで構成

50

させることができる。しかるに、図１～図３に示される基本的構成例では、左右一対のタオルバーユニットＵ、Ｕを、前記スペースを構成する壁Ｗに取り付けさせてなる。より具体的には、かかる左右一対のタオルバーユニットＵ、Ｕを、キッチン、トイレ、風呂、洗面所などの壁Ｗに取り付けさせることで、かかるタオル掛け構造Ｈが構成される。

【００１８】

かかる一対のタオルバーユニットＵ、Ｕはそれぞれ、壁Ｗへの取付部１ａを備えたベース１と、このベース１によって略水平に支持されるタオルバー２とを備えてなる。それと共に、かかる一対のタオルバーユニットＵ、Ｕの少なくとも一方は、タオルバー２の基端２０側を軸部１ｂをもって前記略水平の基準位置からの上方に向けた回動操作可能にベース１に組み合わせてなる。そして、前記基準位置において、右側のタオルバーユニットＵのタオルバー２の自由端２１と、左側のタオルバーユニットＵのタオルバー２の自由端２１とが、接し又は近接されるように、両タオルバーユニットＵ、Ｕを前記取付部１ａをもって前記壁Ｗに取り付けさせている。

10

【００１９】

図示の例では、一対のタオルバーユニットＵ、Ｕの双方共に、タオルバー２を前記回動操作可能にベース１に組み合わせている。各図における右側のタオルバーユニットＵはそのタオルバー２の自由端２１を前記基準位置においてそのベース１の左側に位置させ、各図における左側のタオルバーユニットＵはそのタオルバー２の自由端２１を前記基準位置においてそのベース１の右側に位置させている。また、図１～図３に示される例では、右側のタオルバーユニットＵのタオルバー２の自由端２１と左側のタオルバーユニットＵのタオルバー２の自由端２１とは前記基準位置で接するようになっているが、両者の間には若干の隙間が開けられるようにしておいても良い。

20

【００２０】

図１～図３に示される例では、ベース１は裏面１ｃを前記壁Ｗへの取付部１ａとしてこの壁Ｗにネジ１ｄにより止め付けられる盤状をなすように構成されている。

【００２１】

一方、タオルバー２は、棒状主体２２と、この棒状主体２２の一端部２２ａの支持パーツ２３とから構成されている。棒状主体２２は、金属やプラスチックや木質材、あるいはこれらの一種あるいは二種以上を組み合わせることにより構成することができる。支持パーツ２３は、棒状主体２２の一端部２２ａに接続される第一腕部２３ａと、この第一腕部２３ａの基部から下方に突き出す第二腕部２３ｂとを備えている。そして、かかる支持パーツ２３は、かかる第一腕部２３ａの基部側において、前後方向に軸線を沿わせた軸部１ｂをもってベース１に回動可能に組み付けられている。具体的には、支持パーツ２３に形成された軸穴２３ｃにベース１の表面１ｅから前方に突き出すようにこのベース１に備えられた軸部１ｂを入れ込ませることで、ベース１にタオルバー２が回動可能に組み合わされている。すなわち、図示の例では、かかる棒状主体２２における支持パーツ２３に支持される一端部２２ａ側がタオルバー２の基端２０側となり、かかる棒状主体２２の他端部２２ｂがタオルバー２の自由端２１として機能するようになっている。

30

【００２２】

また、図１～図３に示される例では、ベース１の表面１ｅに、前記軸部１ｂの下方において、タオルバー２が基準位置にあるときに前記支持パーツ２３の第二腕部２３ｂにおける第一腕部２３ａとの接続側と反対の側部に突き当たってこの基準位置から下方への前記軸部１ｂを中心としたタオルバー２の回動を阻止する規制突部１ｆが形成されている。この例では、かかる規制突部１ｆによってベース１によってタオルバー２を基準位置において略水平に支持するようになっている。

40

【００２３】

図１～図３に示される例では、右側のタオルバーユニットＵのタオルバー２と左側のタオルバーユニットＵのタオルバー２は略同じ長さを持つように構成される。また、両タオルバーユニットＵ、Ｕの軸部１ｂが同じレベルに位置されるように両タオルバーユニットＵ、Ｕは前記壁Ｗに取り付けられる。

50

【 0 0 2 4 】

左右のタオルバーユニットU、Uのタオルバー2は基準位置においてその自由端21を接しさせ、あるいは近接させることから、左右のタオルバーユニットUのタオルバー2には両タオルバー2、2の長さの和以内の幅のタオルTやバスタオルT'であればそれを広げた状態で掛けることができる。(図1)タオルTを掛ける作業は、少なくとも一方のタオルバー2を上方に回動操作して左右のタオルバー2、2の自由端21間に間隔を形成させた後、典型的には長さ方向略中程の位置で二つ折りにしたタオルTの内側にこの間隔を利用して左右のタオルバー2、2のいずれか一方をその自由端21から差し入れ、(図2)次いで前記回動のされたタオルバー2が基準位置に戻るようこのタオルバー2の一方側にかかるタオルTを一旦寄せ、左右のタオルバー2、2が共に基準位置に戻ったところでタオルTを広げて左右のタオルバー2、2に共にタオルTが掛けられるようにしてなすことができる。(図1)これにより、タオルバー2を高いレベルに位置させるように前記壁Wに備えさせた場合でも、容易にかかるタオルバー2にタオルTを掛けることができる。また、タオルバー2を一般的なレベルに位置させるように備えさせている場合においては、背の低い子供でも容易にかかるタオルバー2にタオルTを掛けることができる。特に、この実施の形態にかかるタオル掛け構造Hは、比較的重くまた大きいためタオルバー2の設置レベルを上方に配さざるを得ないバスタオルT'を掛ける作業を容易ならしめる特長を有する。

10

【 0 0 2 5 】

(図4および図5に示される第二例)

20

図4および図5は、図1～図3に示されるタオルバーユニットUと同様の構造を備えた左右一对のタオルバーユニットU、Uのタオルバー2が前記基準位置においてその自由端21を互いに接し合わせる例を示している。

【 0 0 2 6 】

また、この図4および図5に示される例では、右側のタオルバーユニットUのタオルバー2の自由端21側に、タオルバー2の水平支持状態において、左側のタオルバーユニットUのタオルバー2の自由端21側に形成させた被受容部25を上方から受け入れてこれを支持する受容部24が形成されていると共に、

左側のタオルバーユニットUのタオルバー2の自由端21側に、タオルバー2の水平支持状態において、右側のタオルバーユニットUのタオルバー2の自由端21側に形成させた被受容部25を上方から受け入れてこれを支持する受容部24が形成されている。

30

【 0 0 2 7 】

具体的には、この図4および図5に示される例では、左右のタオルバー2の棒状主体22の他端部22bにそれぞれ、下方に向けて凹み且つ棒状主体22の側部22cにおいて開放された凹状をなす受容部24と、この受容部24と他端部の末端となる自由端21との間において棒状主体22の側部22cから突き出す被受容部25とが備えられている。図示の例では、受容部24は棒状主体22の厚さの略半分の深さを持ちその上方に向けられた底面を被受容部25の支持面24aとしており、一方、被受容部25はこの受容部24の深さと略等しい厚さを有するように構成されている。また、左右のタオルバー2の一方においては受容部24は棒状体の後方に向けられた側部22cにおいて開放されると共に被受容部25は後方に向けて突き出され、左右のタオルバー2の他方においては受容部24は棒状体の前方に向けられた側部22cにおいて開放されると共に被受容部25は前方に向けて突き出されるようになっている。また、棒状主体22の長さ方向での受容部24の幅は被受容部25の幅よりも大きく、左右のタオルバー2、2が共に基準位置にある状態においては受容部24のタオルバー2の基端20側に位置される端部に被受容部25は位置づけられるようになっている。(図4)

40

【 0 0 2 8 】

これにより、この図4および図5に示される例にあっては、左右のタオルバーユニットUのタオルバー2が基準位置にある状態において、左右のタオルバー2をその自由端21において互いに支え合わせることができ、掛けられたタオルTを安定的に支持することが

50

できる。

【 0 0 2 9 】

図示の例では、左右のタオルバー 2 の一方又は双方を上方に回動操作させた状態から、この操作を止めると基準位置に回動復帰する過程で被受容部 2 5 が対の相手となるタオルバー 2 の棒状主体 2 2 の側部 2 2 c に接して両タオルバー 2、2 の棒状主体 2 2 の向き合った側部 2 2 c 間をやや押し広げることで、基準位置において前記のように対の相手となるタオルバー 2 の受容部 2 4 に自らの被受容部 2 5 を入れ込ませ、かつ、自らの受容部 2 4 に対の相手となるタオルバー 2 の被受容部 2 5 を入れ込ませるようになっている。かかる押し広げは、棒状主体 2 2 に弾性を持たせたり、軸部 1 b の軸線方向へのタオルバー 2 の若干の移動を許容させるようにベース 1 とタオルバー 2 とを組み付け合わせておくことで実現させることができる。

10

【 0 0 3 0 】

(図 6 および図 7 に示される第三例)

図 6 および図 7 は、図 1 ~ 図 3 に示されるタオルバーユニット U を構成するベース 1 と同様に機能されるベース 1 に、二以上のタオルバー 2 を上方に向けた回動操作可能に基準位置に支持させるようにした例を示している。

【 0 0 3 1 】

この例にあっては、左右一対のタオルバーユニット U、U がそれぞれ、二つのタオルバー 2 を、これらのタオルバー 2 のベース 1 による支持高さで壁 W から距離とが相互に一致しないように備えていると共に、

20

各支持高さにおいてそれぞれ、右側のタオルバーユニット U のタオルバー 2 と左側のタオルバーユニット U のタオルバー 2 とが水平支持状態において協働して一枚のタオル T を掛け得る対となるように、両タオルバーユニット U、U を壁 W に取り付けさせている。

【 0 0 3 2 】

図示の例では、両タオルバーユニット U、U のベース 1 において、上方に支持されるタオルバー 2 は下方に支持されるタオルバー 2 よりも壁 W 側に位置されるようになっている。また、タオルバー 2 を構成する棒状主体 2 2 はその一端部 2 2 a を軸部 1 b によって直接ベース 1 の表面 1 e に回動可能に組み付けられている。ベース 1 の表面 1 e 側は図 7 に示されるように階段状に構成されており、上段面 1 g で上方に位置されるタオルバー 2 を支持して基準位置に位置づけ、下段面 1 h で下方に位置されるタオルバー 2 を支持して基準位置に位置づけるようにしている。

30

【 0 0 3 3 】

この図 6 および図 7 に示される例にあっては、二枚のタオル T、T をそれを掛ける作業を容易に行えるようにした態様で、合理的に掛けることができるようになっている。具体的には、壁 W に近い側のタオルバー 2 にタオル T を掛けるときは、壁 W から遠い側のタオルバー 2 にタオル T が掛けられているときはこのタオル T を右側又は左側によせることにより、壁 W に近い側に位置される対をなすタオルバー 2、2 の自由端 2 1 間に形成させた間隔を利用してこの対をなすタオルバー 2、2 に前記のようにタオル T を掛けることができる。

40

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 4 】

【 図 1 】 タオル掛け構造 H の正面構成図

【 図 2 】 タオル掛け構造 H の正面構成図 (タオル T を掛ける過程を示した図)

【 図 3 】 同要部斜視構成図

【 図 4 】 第二例の要部平面構成図

【 図 5 】 同要部分離斜視構成図

【 図 6 】 第三例の正面構成図

【 図 7 】 図 6 における A - A 線断面図

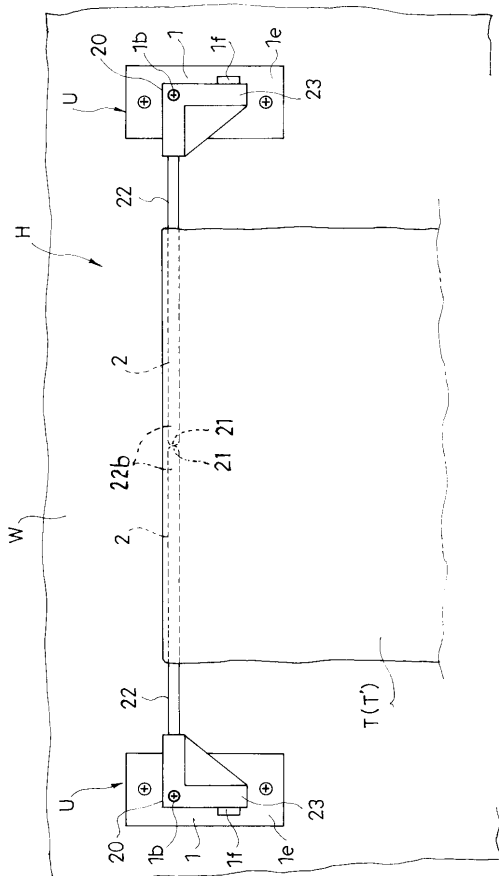
【 符号の説明 】

【 0 0 3 5 】

50

- W 壁
 U タオルバーユニット
 1 ベース
 1 a 取付部
 1 b 軸部
 2 タオルバー
 2 0 基端
 2 1 自由端

【図 1】



【図 2】

